



●「日本の美しい色風景」投稿のすすめ

日本色彩学会のホームページを開くと、冒頭ページの右側に、「日本の美しい色風景」のバナーがあります。

ここからアクセスすると、学会員の投稿写真を見ることができ、投稿もできます。

学会員の方々が美しいと感じられた写真を多数拝見することもでき、利用もできます。

色彩教材研究会員の皆様も、関心を持って、ぜひ投稿をなさることをお勧めします。

「美しい」というセンスは、個人の感性であり、自分が美しいと感じた色風景や配色などを率直に認めて、恥ずかしがらないで投稿することこそ大切だと思っています。

色彩学は物理的な色彩理論も大切ですが、美醜を見分ける色彩感性も大切です。それを教える道具が色彩教材であり、この色彩教材研究会の役割でもあります。

出来れば、会員同士でグループを作り、テーマを決めて、過去の写真を持ち寄ったり、撮影会をしたりして、それらの写真を材料に、色彩教材を作り、発表の場で披露していただだけませんか。スマホの普及で、撮影は身近なものになっています。

とにかく、「日本の美しい色風景」の内容を見ることから始めましょう。 (永田泰弘)

● 万葉集のなかの色名 - 2

万葉集は、巻1から巻20までの20巻構成になっており、後世、各歌に連番が打たれ、検索がしやすいようになっている。

白波の 浜松が枝の 手向草
幾夜までにか 年の経ぬらむ
山上臣憶良 (巻1-34)

ま草刈る 荒野にあらで 黄葉の
過ぎにし君が 形見とそ来し
よみびとしらず (巻1-47)

^{あおに}青丹よし ^{なら}寧楽の家には 万代に
われも通はむ 忘ると思ふな
よみびとしらず (巻1-80)

海の底 奥つ白波 立田山
何時か越えなむ 妹があたり見む
よみびとしらず (巻1-83)

巻1の残りの短歌に使われている色名の単語は、白波、黄葉、青丹である。黄葉は「もみちば」と読むが、黄葉も紅葉も同じ発音であったと思われる。

「青丹」は奈良の枕詞として用いられたが、その意味は、青はブルー、丹はレッドの意味と、赤土の意味をもち、土と同義語。青丹は青色の土の意味ともなる。「良い青土が採れる奈良」という意味も込められている。

*講談社文庫・中西進・万葉集から (永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 35 ーお

黄化：おうか。植物の緑色になるべき部分がクロロフィルを欠き、黄色または白色化する現象。光や鉄分の不足などによって起こる。

黄褐色：黄色味を帯びた茶色。

黄牛：おうぎゅう。家畜の牛の一品種。肩に小さな瘤があり、黄褐色。

黄玉：おうぎよく。アルミニウムと弗素を含む珪酸塩鉱物。無色または黄色の透明な柱状結晶で、柱面に縦の条線がある。斜方晶系。宝石とする。トパーズ。こうぎよく。

黄金：おうごん。こがね。きん。金銭。貨幣。特に、大判の金貨。

黄酒：中国酒で、穀物を原料とする穀物酒の総称。こうしゅ。ホワンチュー。

黄熟：おうじゅく。草木の実、特に稲・麦などの穂が熟して黄色くなること。こうじゅく。

黄色：きいろ。おうしよく。こうしよく。

黄色人種：おうしよくじんしゅ。皮膚の色で分類した人種区分の一。黄色・黄褐色の皮膚を持つ人の総称。モンゴロイド。

黄体：おうたい。脊椎動物の卵巣で排卵後の卵胞から生じる黄色の組織。黄体ホルモンを分泌し、発情周期を調整する。

棟・櫓：おうち。センダンの古名。襲の色目の名、表は薄紫、裏は青。 (永田泰弘)